

Agri Note 菜園

アグリノート菜園情報

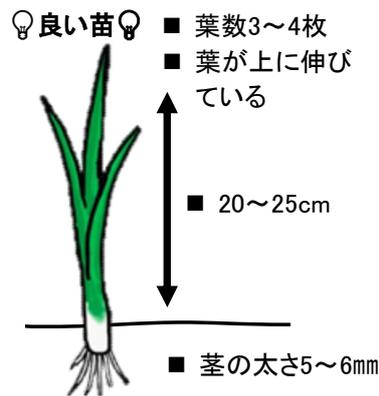
JA福井県

日ごとに秋の色が深まってきました。夏から秋へ季節が移ろう季節は、旬の変わり目でもあります。今回は秋のうちに種をまいて、来年に収穫をむかえる玉ねぎの紹介です。独特の香りと刺激臭は、肉や魚のくさを消し甘みを増し、各種の料理に、生食にも向き年間を通して使える重宝野菜！家庭の強い味方「玉ねぎ」を美味しく楽しく作りましょう。

1. 栽培のポイント

【種まき】 播種適期：9月10日～9月15日頃

- 2～3週間以上前：苦土石灰を1㎡あたり100～150gを全面に散布してよく耕す。
- 1～2週間前：牛ふん堆肥、化成肥料を施して、苗床の土づくりしておく。
- 種まき：8～10cm間隔、深さ8mm位のまき溝をつくり、1cm間隔でタネをまく。まき溝の両側から土を寄せて覆土し、最後に手で押さえて鎮圧する。
- 茎の直径が5～6mmになるまで育苗する。発芽したら混んでいるところを間引き、2cm間隔にして育てる。草丈が20～25cmになると良い苗の完成！鉛筆以上の太い苗を定植すると春先にトウ立ちの原因になるので注意する。

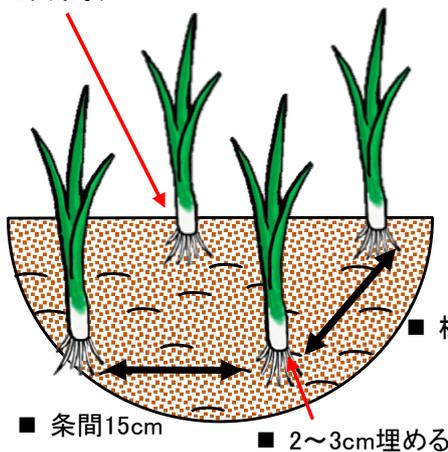


【畑の準備】

畑への植付け2週間前に苦土石灰をまいておく。さらに1週間前に元肥を与えてよく混ぜ畑準備をしっかり行う。

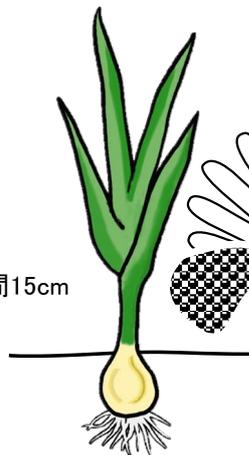
【植え付け】

真っすぐにして白い部分が少し埋まるくらいの浅植えにする。（植付けは白い部分を少し出す。）



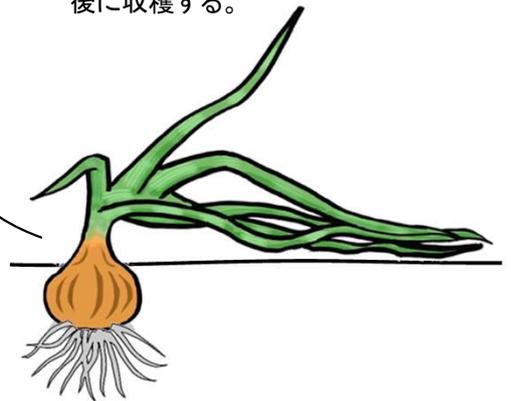
【追肥】

融雪後（2月以降）1回目の施肥を行う。その後、3月中旬までに1～2回追肥する。



【収穫】

葉が黄色くなり8割くらい倒れたころを目安に引き抜いて収穫。畑に並べればしばらく乾かす。お天気の良い日を選んで収穫作業。長期貯蔵をする場合はさらに1週間後に収穫する。



2. 病害虫防除

べと病、腐敗病、アブラムシ、ネギアザミウマは、近年よく見られる病害虫です。予防対策や防除で被害を防ぐことが出来ますので、被覆などによるアブラムシなど害虫の侵入防止や殺虫剤による予防防除を行いましょ。

【殺菌剤】

- べと病にかかったら…「ジマンダイセン水和剤」「ダコニール1000」が有効
- かかる前に予防：排水の悪い圃場では高畝栽培するなど過湿にならないようにする。発病圃場で連作をすると被害が増加する。

【殺虫剤】

- アブラムシ…「スミチオン乳剤」「マラソン乳剤」
 - ネギアザミウマ…「ディアナSC」初発時に希釈して散布し、以降10日間隔で薬剤散布を実施
- ※ルーラル電子図書館参照

